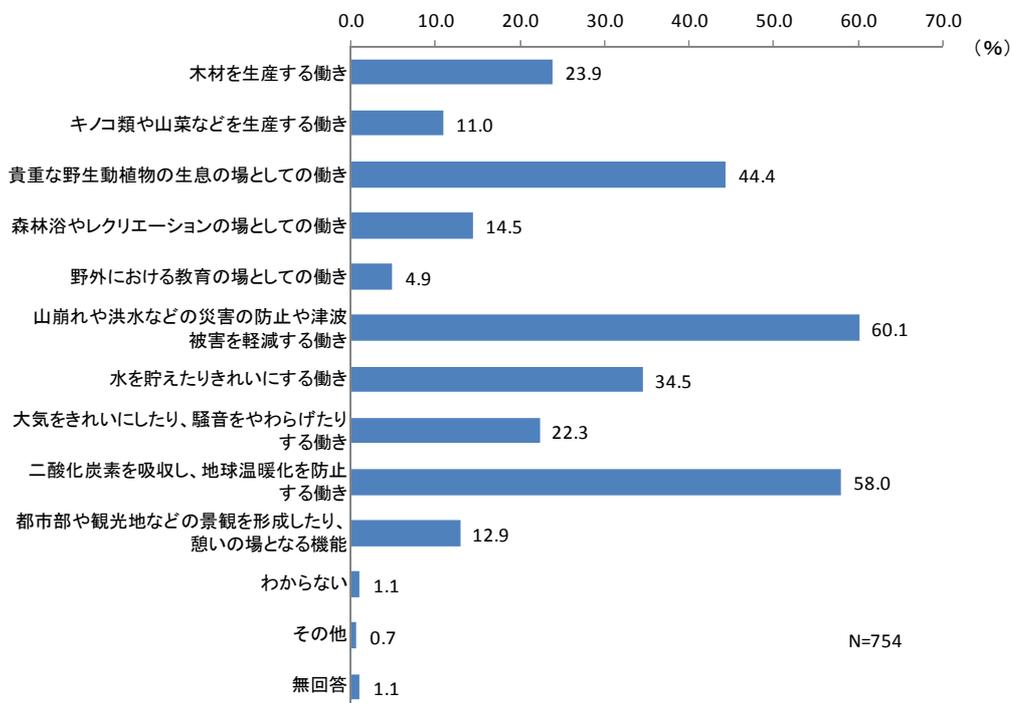


5. 森林・森林づくりに関する意識について

問1 あなたは、森林にどのような働きを期待しますか。次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「山崩れや洪水などの災害の防止や津波被害を軽減する働き」が 60.1%と最も高く、次いで「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」が 58.0%、「貴重な野生動植物の生息の場としての働き」が 44.4%となっている。

【圏域別】

「山崩れや洪水などの災害の防止や津波被害を軽減する働き」は、道南圏（69.0%）が最も高く、次いでオホーツク圏（65.1%）となっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」は、道北圏（76.0%）が最も高く、次いで道南圏（63.8%）となっている。

【人口規模別】

「山崩れや洪水などの災害の防止や津波被害を軽減する働き」は、人口 10 万人未満の都市（63.4%）が最も高く、次いで人口 10 万人以上の都市（61.7%）となっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」は、人口 10 万人以上の都市（64.4%）が最も高く、次いで人口 10 万人未満の都市（60.3%）となっている。

【性別】

「山崩れや洪水などの災害の防止や津波被害を軽減する働き」は、男性 59.3%、女性 61.8%となっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」は、男性 53.6%、女性 62.9%となっている。

【年代別】

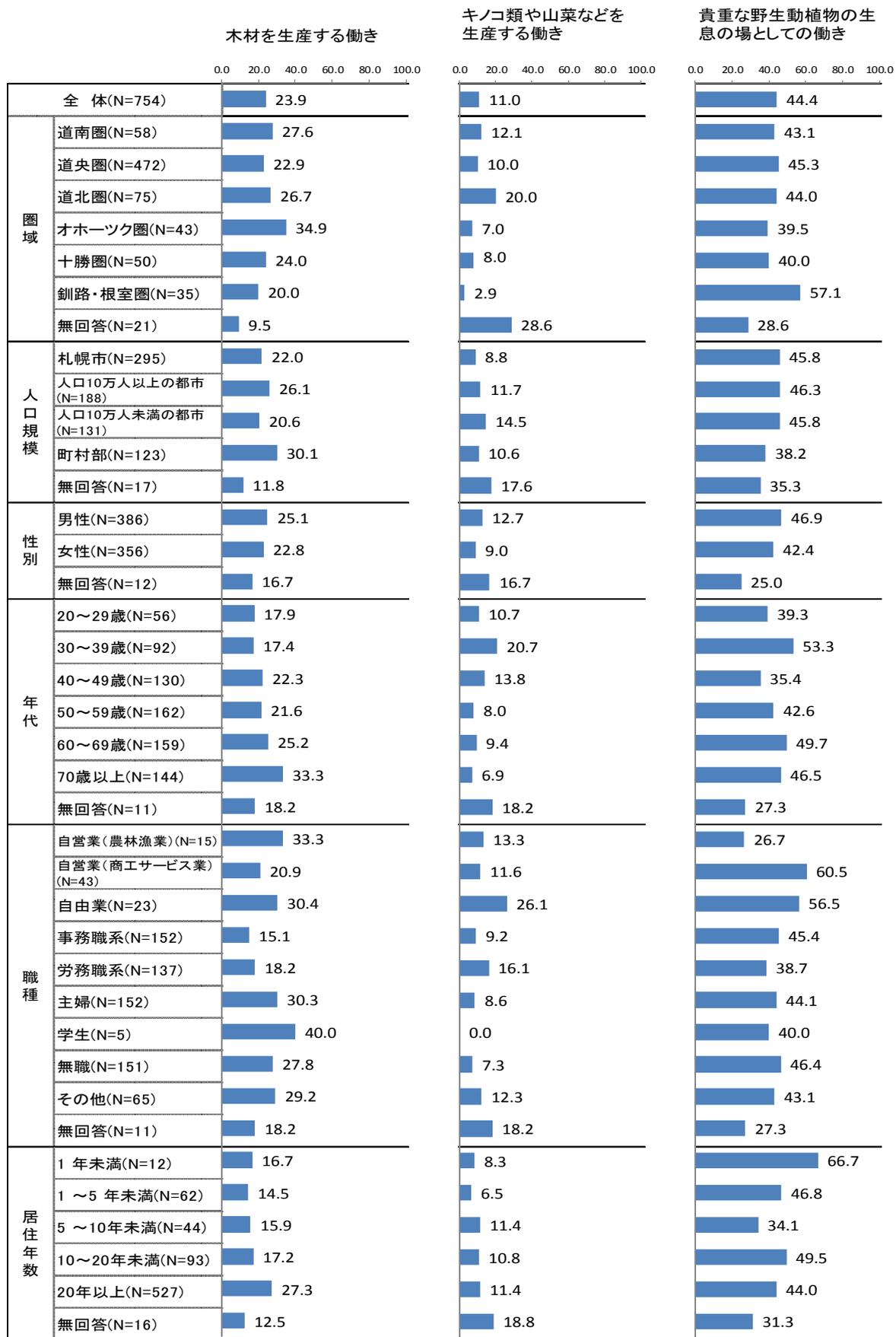
「山崩れや洪水などの災害の防止や津波被害を軽減する働き」は、60～69 歳（71.7%）が最も高く、次いで 70 歳以上（71.5%）となっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」は、50～59 歳（63.6%）が最も高く、次いで 70 歳以上（61.8%）となっている。

【職種別】

「山崩れや洪水などの災害の防止や津波被害を軽減する働き」は、自営業（商工サービス業）（74.4%）が最も高く、次いで自営業（農林漁業）（66.7%）となっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」は、その他（63.1%）が最も高く、次いで主婦（62.5%）となっている。

【居住年数別】

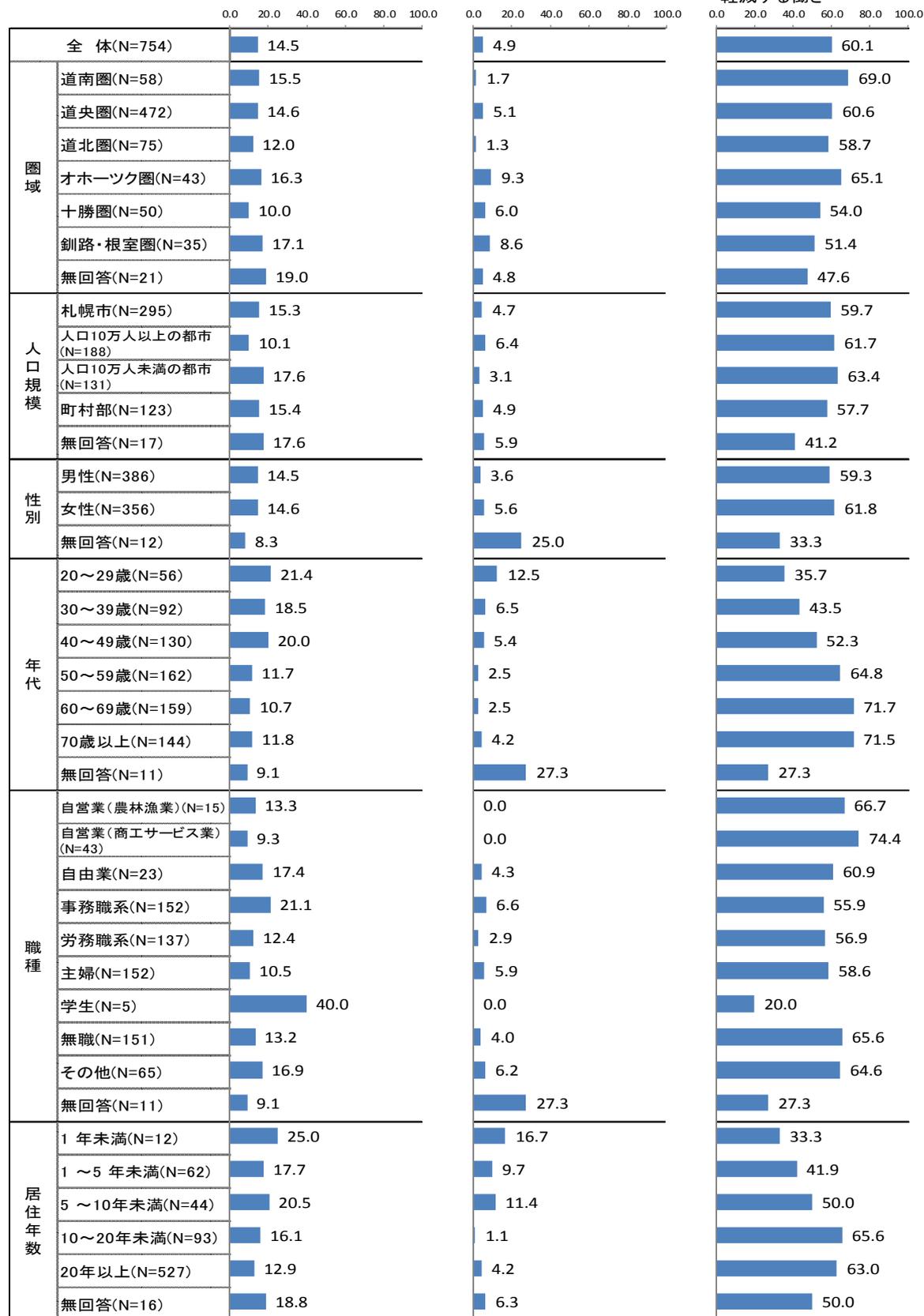
「山崩れや洪水などの災害の防止や津波被害を軽減する働き」は、10～20年未満（65.6%）が最も高く、次いで20年以上（63.0%）となっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」は、20年以上（59.4%）が最も高く、次いで10～20年未満（58.1%）となっている。

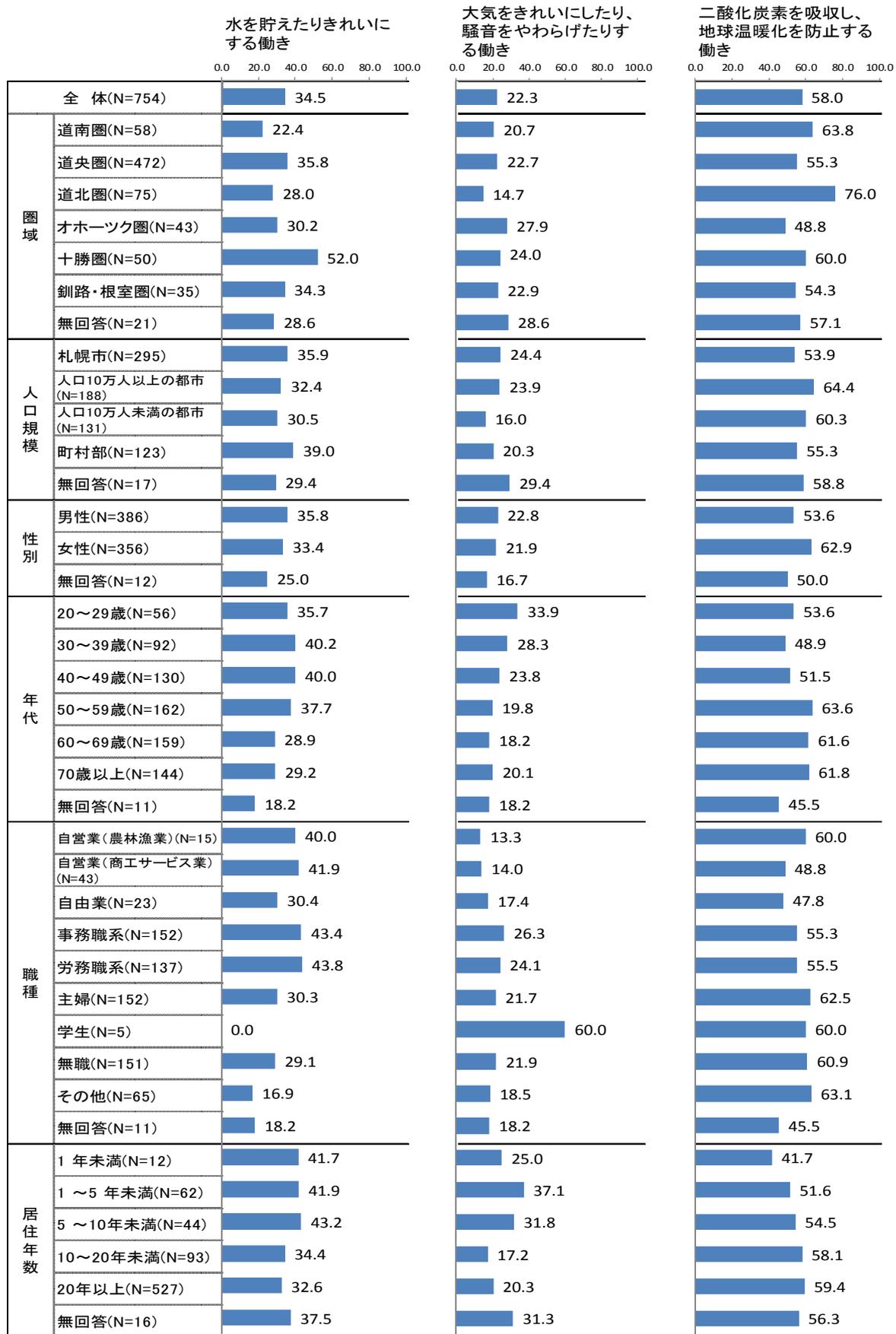


森林浴やレクリエーションの場としての働き

野外における教育の場としての働き

山崩れや洪水などの災害の防止や津波被害を軽減する働き

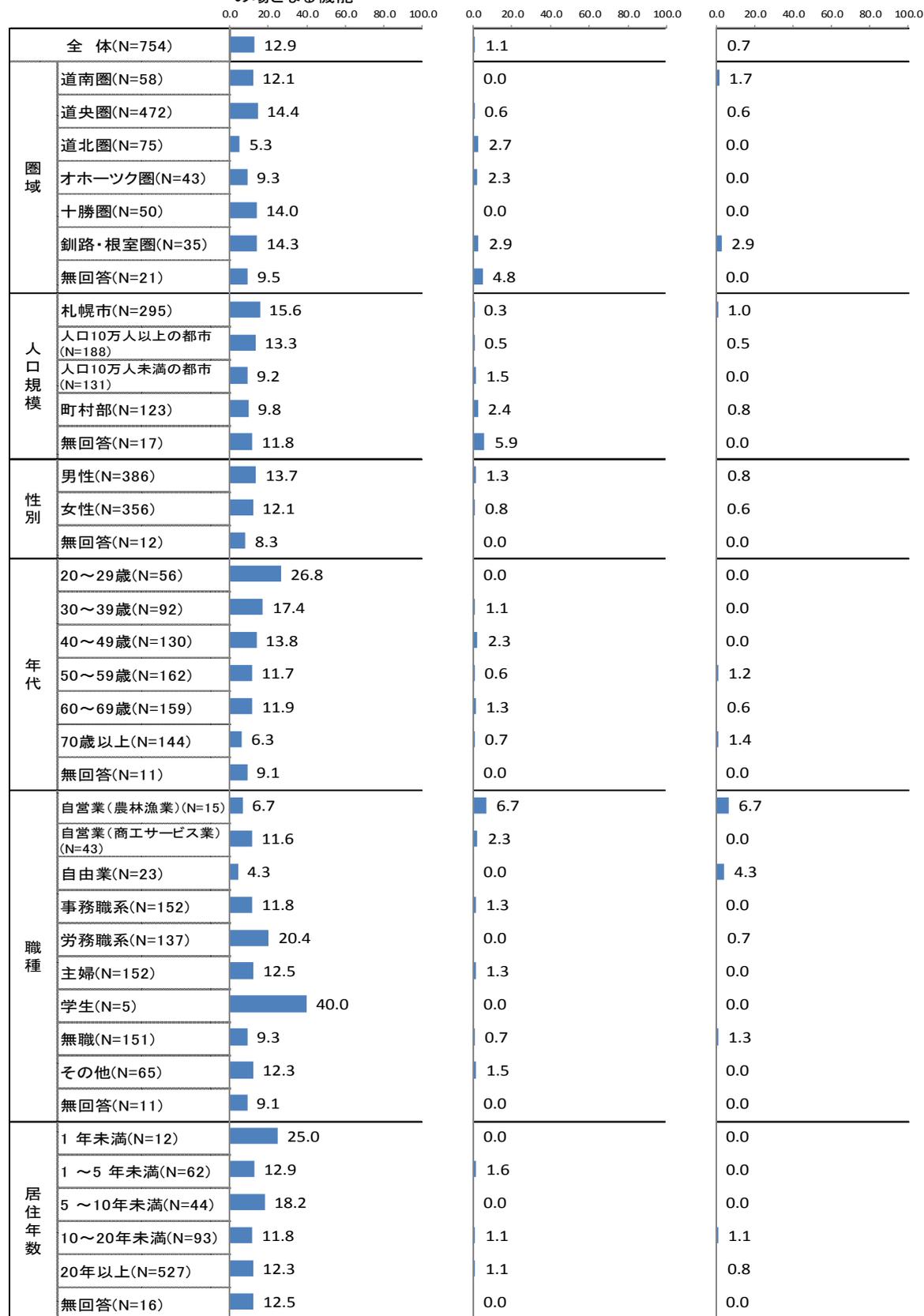




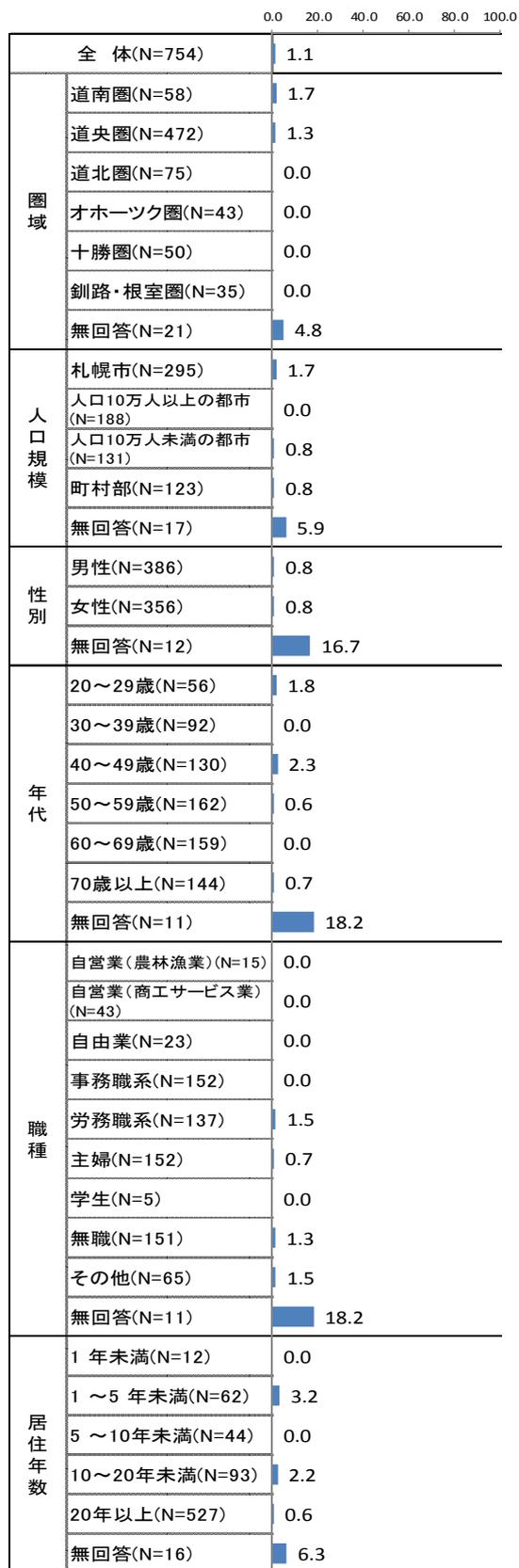
都市部や観光地などの
景観を形成したり、憩い
の場となる機能

わからない

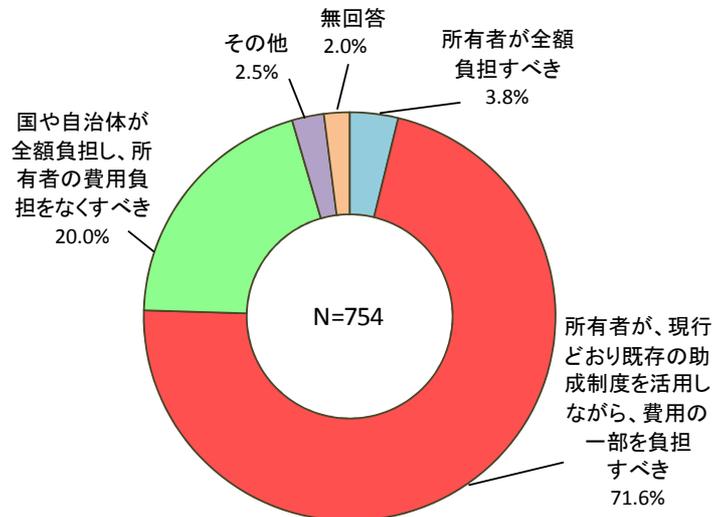
その他



無回答



問2 森林には様々な働きがあり、その機能を維持するため、森林所有者は、国や自治体の助成を受けながら、費用の一部を負担して森林づくりを行っています。森林づくりに関わる費用負担はどのようにするべきだと思いますか。次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「所有者が、現行どおり既存の助成制度を活用しながら、費用の一部を負担すべき」が71.6%と最も高く、次いで「国や自治体が全額負担し、所有者の費用負担をなくすべき」が20.0%、「所有者が全額負担すべき」が3.8%となっている。

【圏域別】

「所有者が、現行どおり既存の助成制度を活用しながら、費用の一部を負担すべき」は、十勝圏(80.0%)が最も高く、次いで道北圏(78.7%)となっている。「国や自治体が全額負担し、所有者の費用負担をなくすべき」は、釧路・根室圏(28.6%)が最も高く、次いで道央圏(21.2%)となっている。

【人口規模別】

「所有者が、現行どおり既存の助成制度を活用しながら、費用の一部を負担すべき」は、人口10万人以上の都市(72.9%)が最も高く、次いで人口10万人未満の都市(72.5%)となっている。「国や自治体が全額負担し、所有者の費用負担をなくすべき」は、人口10万人未満の都市(23.7%)が最も高く、次いで町村部(22.0%)となっている。

【性別】

「所有者が、現行どおり既存の助成制度を活用しながら、費用の一部を負担すべき」は、男性71.0%、女性73.0%となっている。「国や自治体が全額負担し、所有者の費用負担をなくすべき」は、男性19.7%、女性19.9%となっている。

【年代別】

「所有者が、現行どおり既存の助成制度を活用しながら、費用の一部を負担すべき」は、20～29歳(80.4%)が最も高く、次いで50～59歳(75.9%)となっている。「国や自治体が全額負担し、所有者の費用負担をなくすべき」は、40～49歳(22.3%)が最も高く、次いで30～39歳(21.7%)となっている。

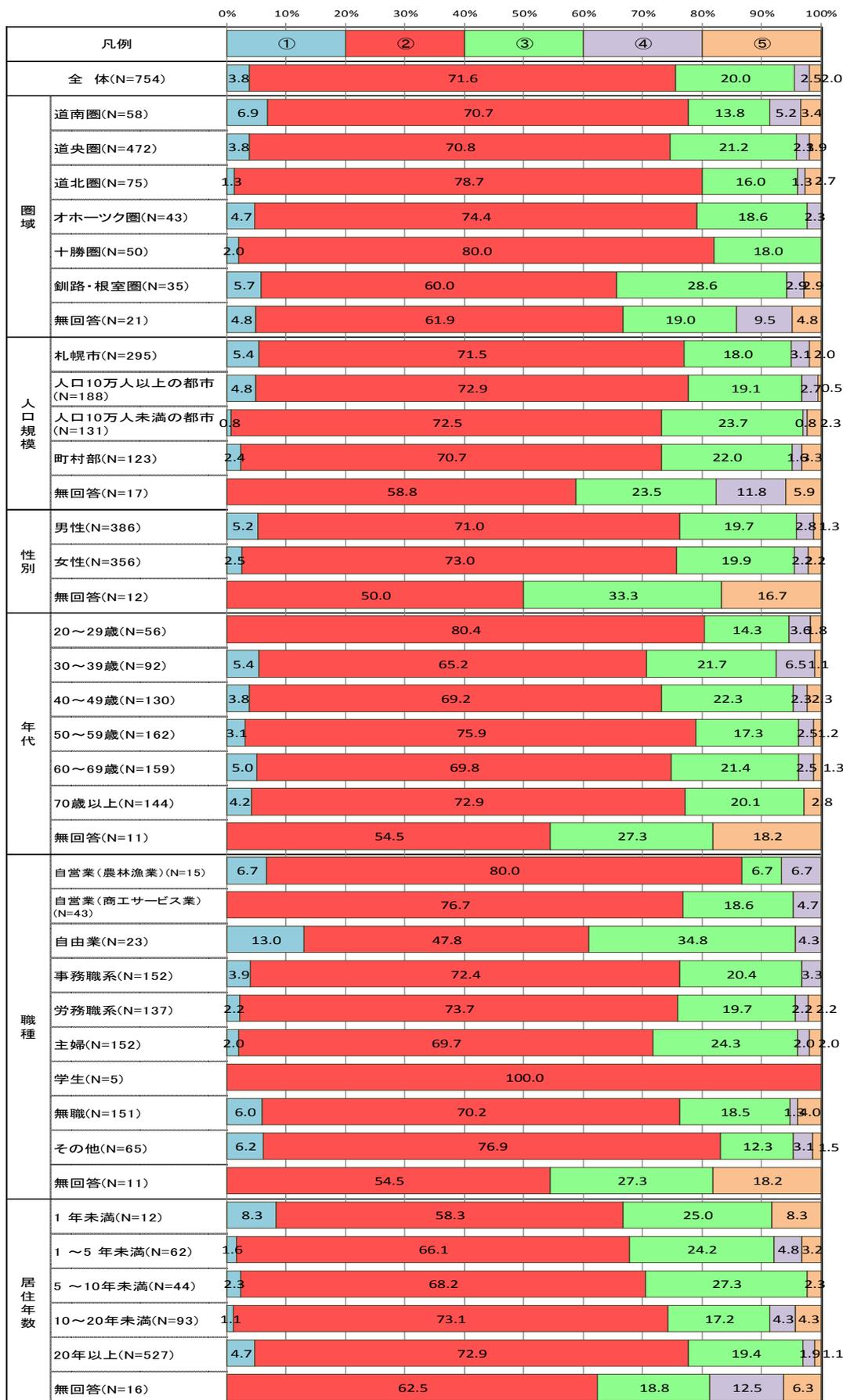
【職種別】

「所有者が、現行どおり既存の助成制度を活用しながら、費用の一部を負担すべき」は、自営業(農林漁業)(80.0%)、その他(76.9%)、自営業(商工サービス業)(76.7%)で比較的高くなっている。「国や自治体が全額負担し、所有者の費用負担をなくすべき」は、自由業(34.8%)が最も高く、次いで主婦(24.3%)となっている。

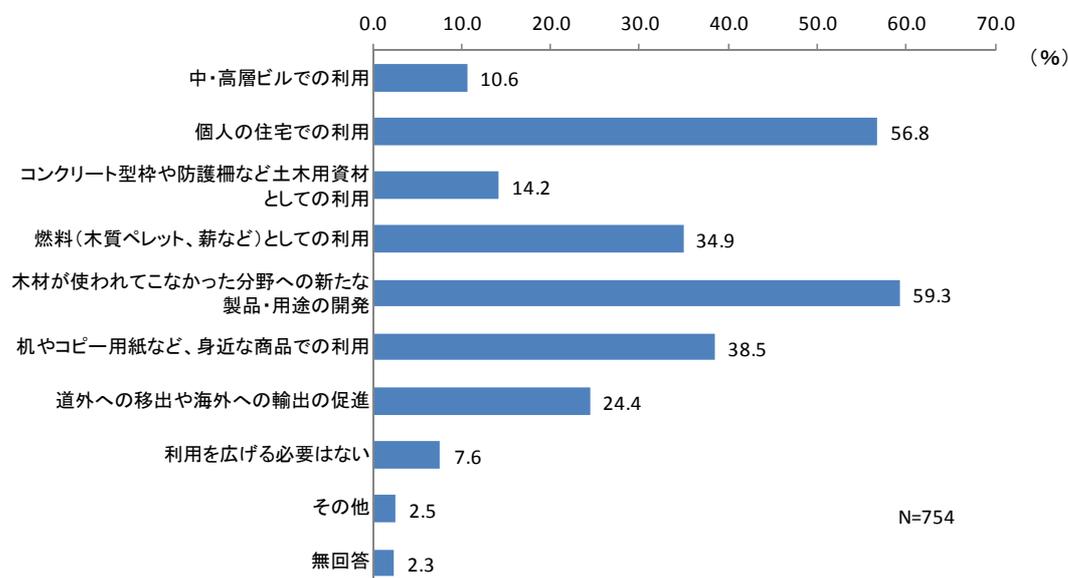
【居住年数別】

「所有者が、現行どおり既存の助成制度を活用しながら、費用の一部を負担すべき」は、10～20年未満（73.1%）が最も高く、次いで20年以上（72.9%）となっている。「国や自治体が全額負担し、所有者の費用負担をなくすべき」は、5～10年未満（27.3%）が最も高く、次いで1年未満（25.0%）となっている。

- ①所有者が全額負担すべき
 ②所有者が、現行どおり既存の助成制度を活用しながら、費用の一部を負担すべき
 ③国や自治体が全額負担し、所有者の費用負担をなくすべき ④その他 ⑤無回答



問3 道では、道産木材と木製品の利用を促進していくために、これまで木材が利用されてこなかった分野や輸入材が利用されてきた分野などで利用を広げる取組を進めています。今後、どのような利用に期待しますか。次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「木材が使われてこなかった分野への新たな製品・用途の開発」が 59.3%と最も高く、次いで「個人の住宅での利用」が 56.8%、「机やコピー用紙など、身近な商品での利用」が 38.5%となっている。

【圏域別】

「木材が使われてこなかった分野への新たな製品・用途の開発」は、十勝圏（72.0%）が最も高く、次いで道南圏（60.3%）となっている。「個人の住宅での利用」は、十勝圏（70.0%）が最も高く、次いでオホーツク圏（69.8%）となっている。

【人口規模別】

「木材が使われてこなかった分野への新たな製品・用途の開発」は、札幌市（62.7%）が最も高く、次いで人口 10 万人以上の都市（60.1%）となっている。「個人の住宅での利用」は、町村部（66.7%）が最も高く、次いで人口 10 万人未満の都市（57.3%）となっている。

【性別】

「木材が使われてこなかった分野への新たな製品・用途の開発」は、男性 63.2%、女性 55.1%となっている。「個人の住宅での利用」は、男性 60.4%、女性 53.1%となっている。

【年代別】

「木材が使われてこなかった分野への新たな製品・用途の開発」は、70 歳以上（68.8%）が最も高く、次いで 60～69 歳（66.7%）となっている。「個人の住宅での利用」は、60～69 歳（73.0%）が最も高く、次いで 70 歳以上（61.8%）となっている。

【職種別】

「木材が使われてこなかった分野への新たな製品・用途の開発」は、自営業（商工サービス業）（69.8%）が最も高く、次いで無職（67.5%）となっている。「個人の住宅での利用」は、無職（64.9%）が最も高く、次いで自営業（商工サービス業）（60.5%）となっている。

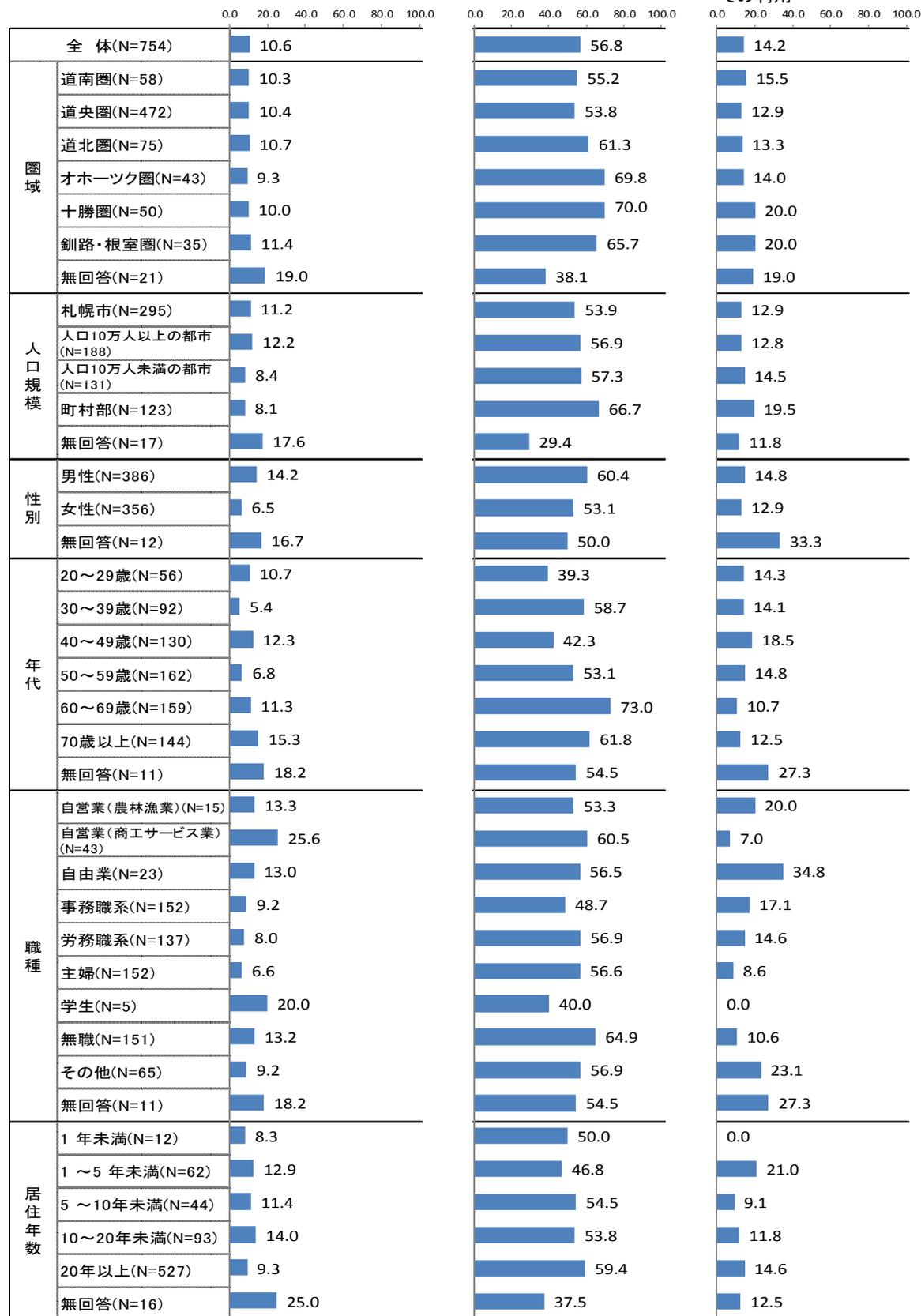
【居住年数別】

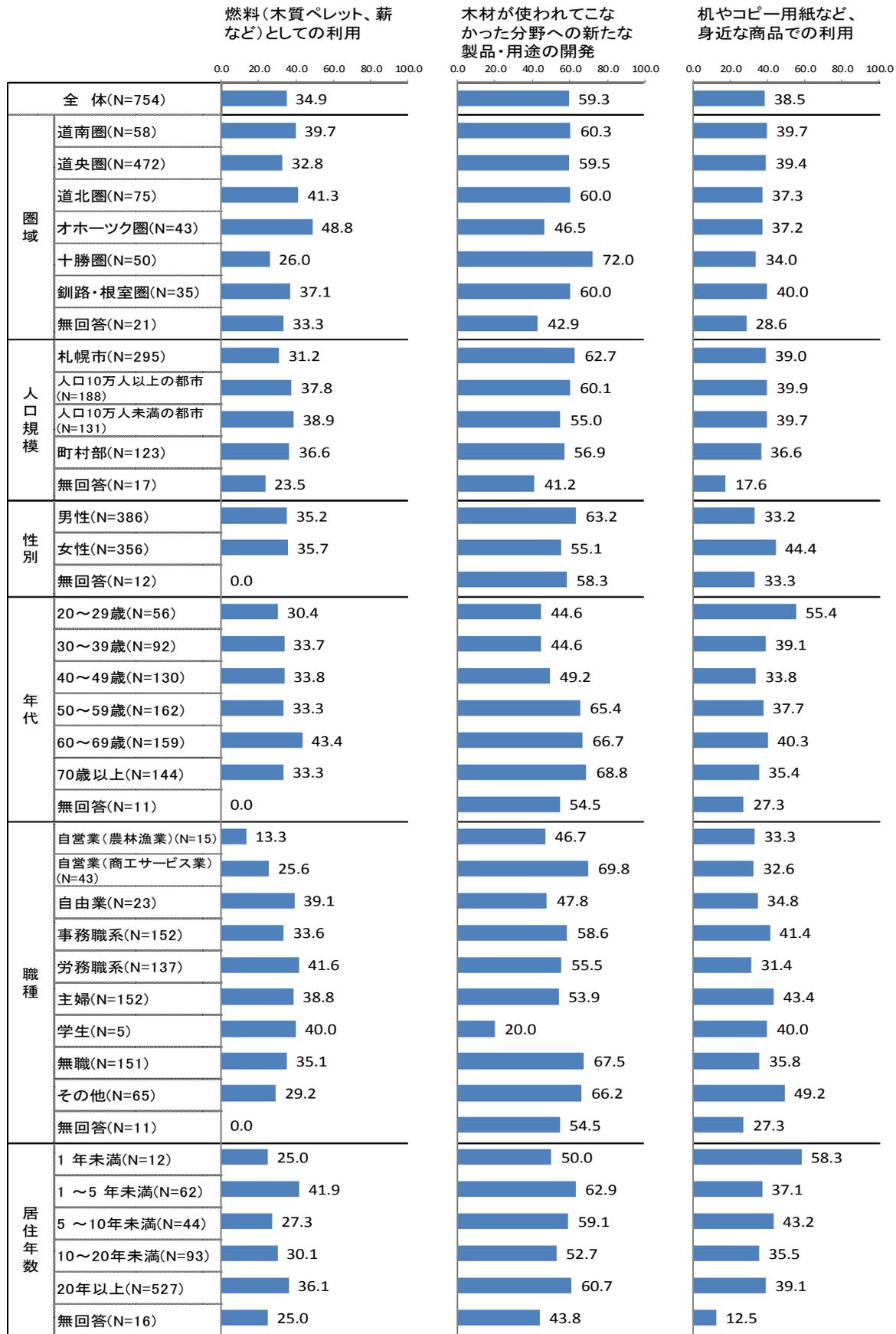
「木材が使われてこなかった分野への新たな製品・用途の開発」は、1～5 年未満（62.9%）が最も高く、次いで 20 年以上（60.7%）となっている。「個人の住宅での利用」は、20 年以上（59.4%）が最も高く、次いで 5～10 年未満（54.5%）となっている。

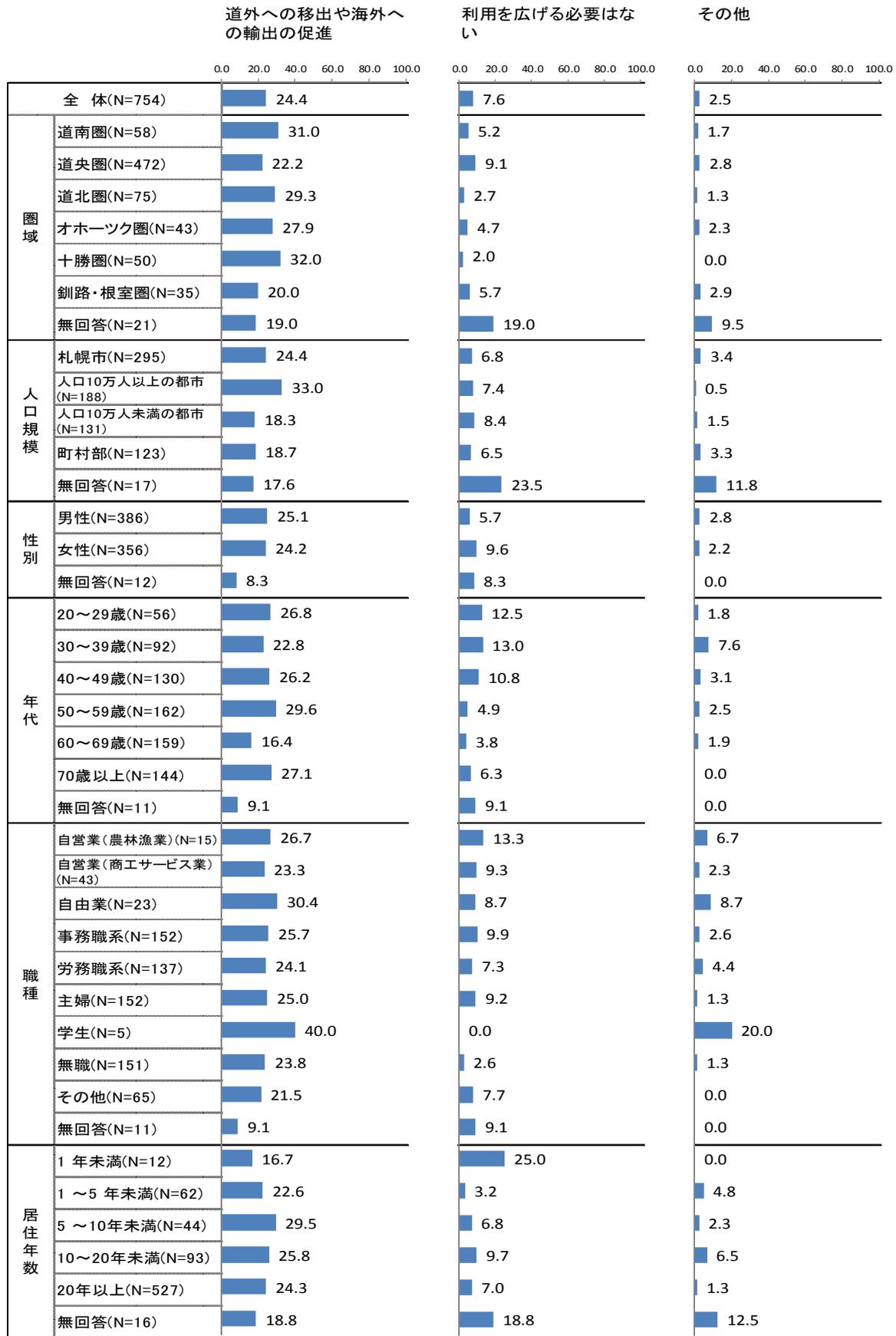
中・高層ビルでの利用

個人の住宅での利用

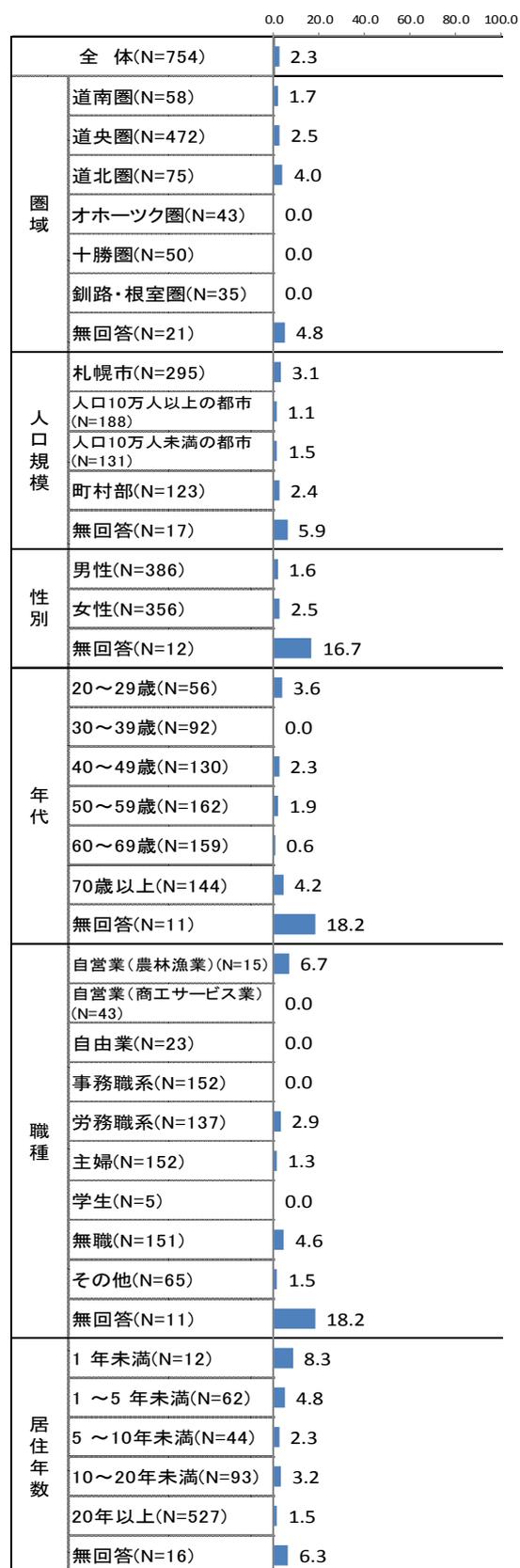
コンクリート型枠や防護
柵など土木用資材とし
ての利用



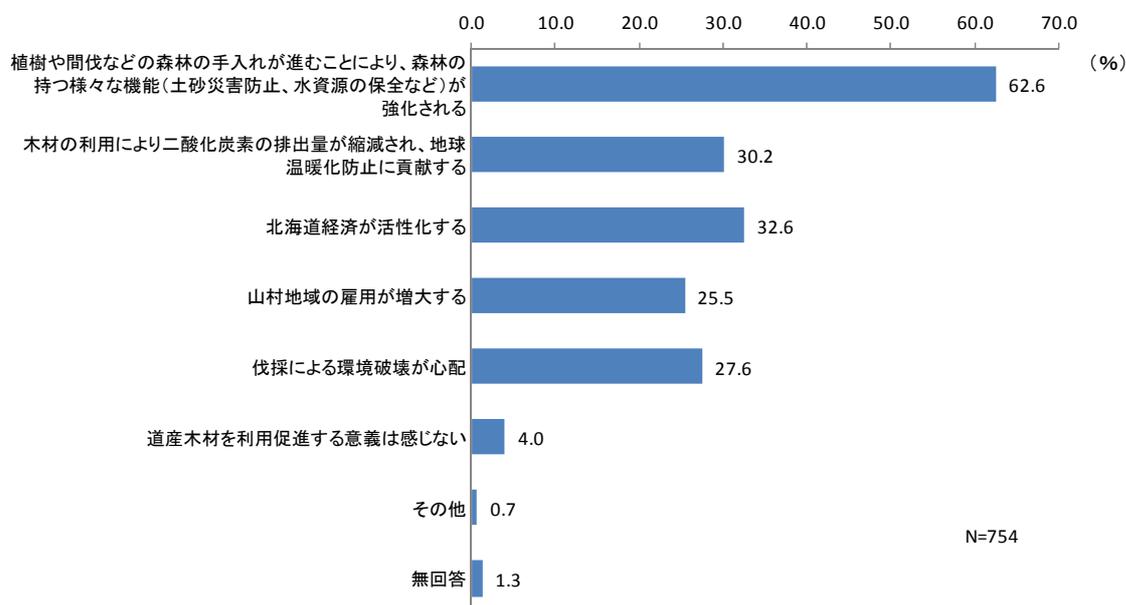




無回答



問4 道産木材や木製品の利用が広がることによって、どのような効果を期待しますか。次の中から2つまでお選びください。



【全体】

「植樹や間伐などの森林の手入れが進むことにより、森林の持つ様々な機能（土砂災害防止、水資源の保全など）が強化される」が 62.6%と最も高く、次いで「北海道経済が活性化する」が 32.6%、「木材の利用により二酸化炭素の排出量が縮減され、地球温暖化防止に貢献する」が 30.2%となっている。

【圏域別】

「植樹や間伐などの森林の手入れが進むことにより、森林の持つ様々な機能が強化される」は、十勝圏（72.0%）が最も高く、次いで釧路・根室圏（68.6%）となっている。「北海道経済が活性化する」は、釧路・根室圏（45.7%）が最も高く、次いでオホーツク圏（41.9%）となっている。

【人口規模別】

「植樹や間伐などの森林の手入れが進むことにより、森林の持つ様々な機能が強化される」は、人口 10 万人以上の都市（67.0%）が最も高く、次いで札幌市（63.7%）となっている。「北海道経済が活性化する」は、人口 10 万人未満の都市（37.4%）が最も高く、次いで人口 10 万人以上の都市（35.6%）となっている。

【性別】

「植樹や間伐などの森林の手入れが進むことにより、森林の持つ様々な機能が強化される」は、男性 65.0%、女性 60.4%となっている。「北海道経済が活性化する」は、男性 33.9%、女性 31.5%となっている。

【年代別】

「植樹や間伐などの森林の手入れが進むことにより、森林の持つ様々な機能が強化される」は、70 歳以上（78.5%）が最も高く、次いで 60～69 歳（74.2%）となっている。「北海道経済が活性化する」は、30～39 歳（43.5%）が最も高く、次いで 50～59 歳（37.7%）となっている。

【職種別】

「植樹や間伐などの森林の手入れが進むことにより、森林の持つ様々な機能が強化される」は、無職（76.2%）が最も高く、次いでその他（72.3%）となっている。「北海道経済が活性化する」は、自由業（65.2%）が最も高く、次いでその他（36.9%）となっている。

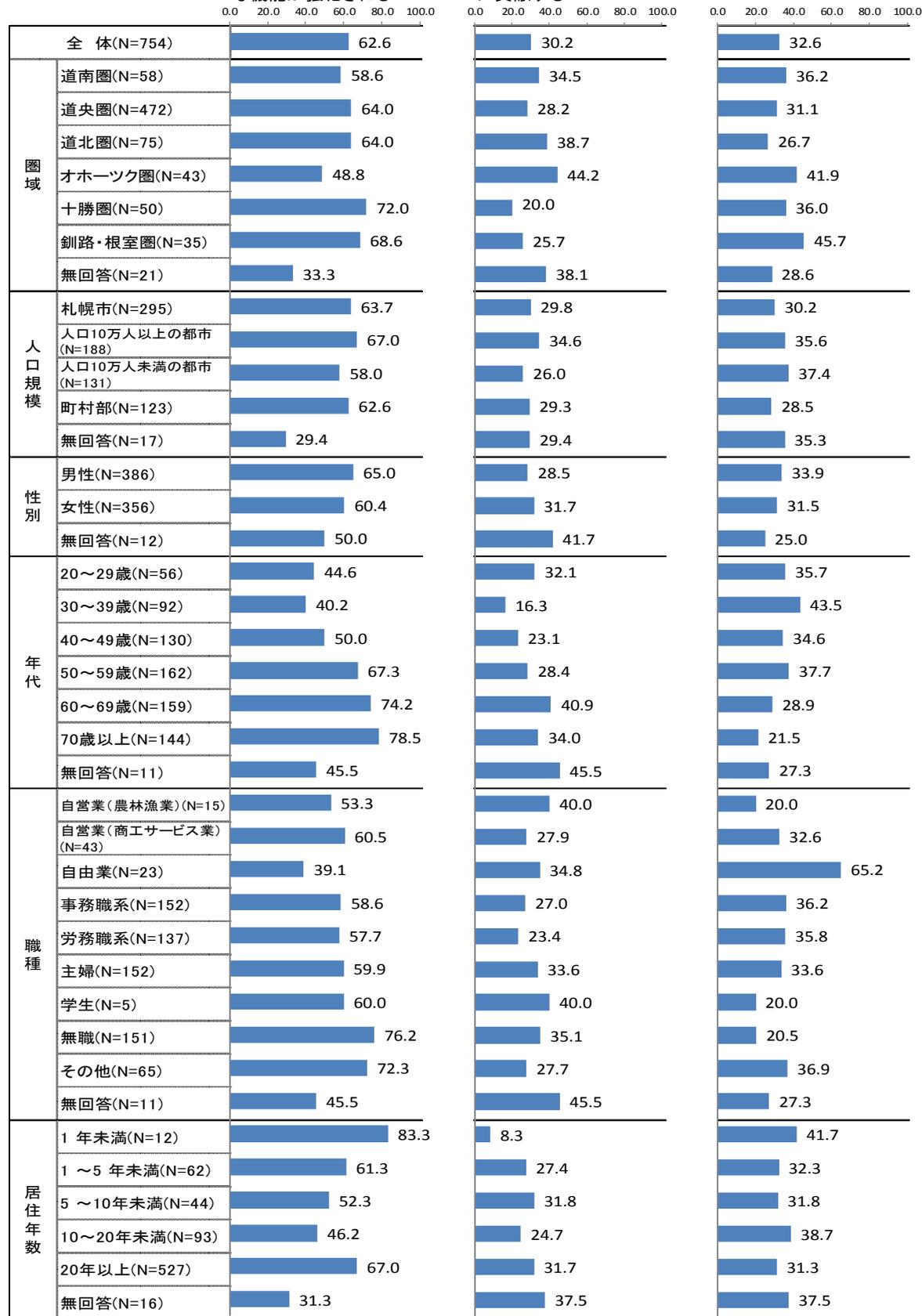
【居住年数別】

「植樹や間伐などの森林の手入れが進むことにより、森林の持つ様々な機能が強化される」は、1年未満（83.3%）が最も高く、次いで20年以上（67.0%）となっている。「北海道経済が活性化する」は、1年未満（41.7%）が最も高く、次いで10～20年未満（38.7%）となっている。

植樹や間伐などの森林の手入れが進むことにより、森林の持つ様々な機能が強化される

木材の利用により二酸化炭素の排出量が縮減され、地球温暖化防止に貢献する

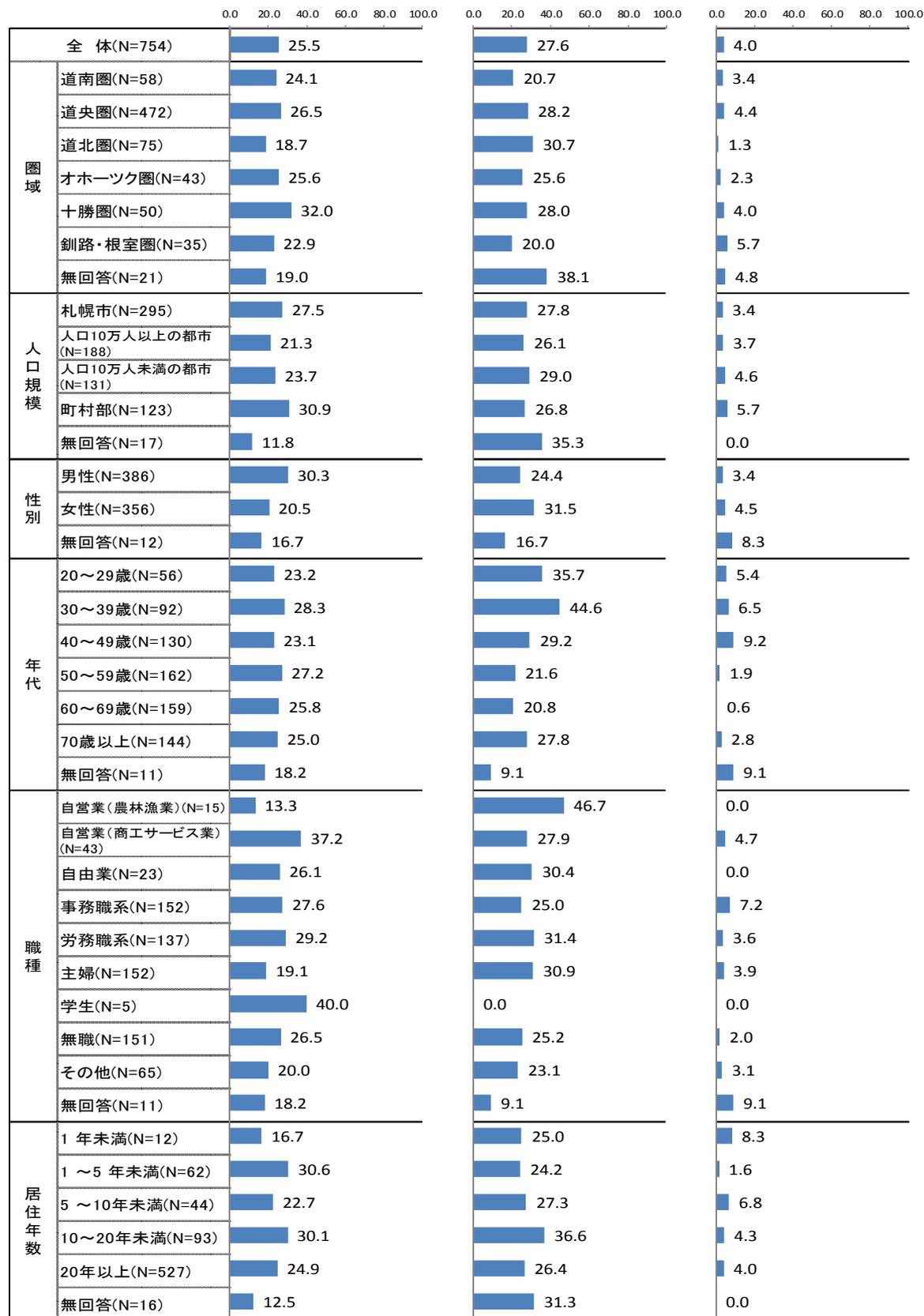
北海道経済が活性化される



山村地域の雇用が増大する

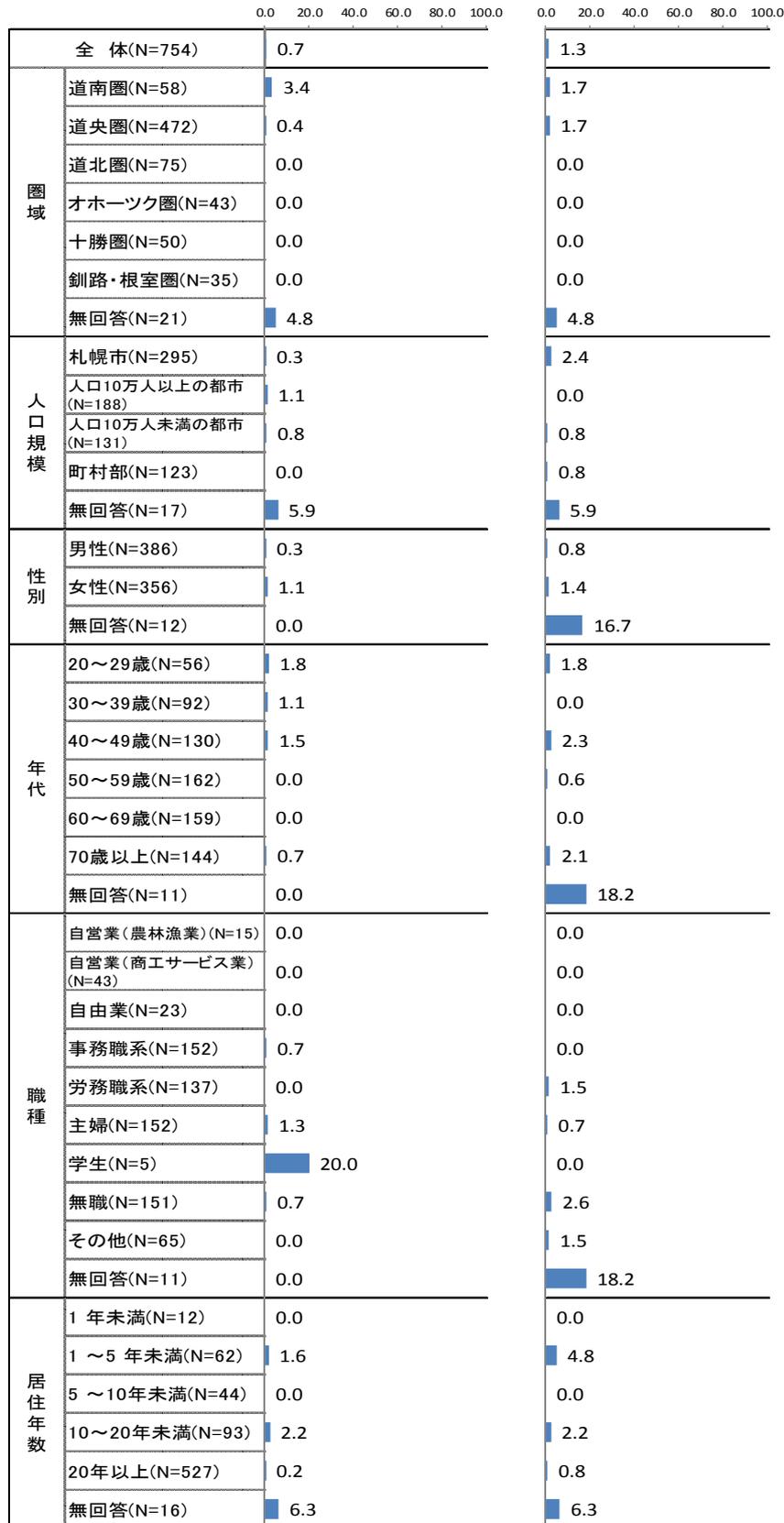
伐採による環境破壊が心配

道産木材を利用促進する意義は感じない

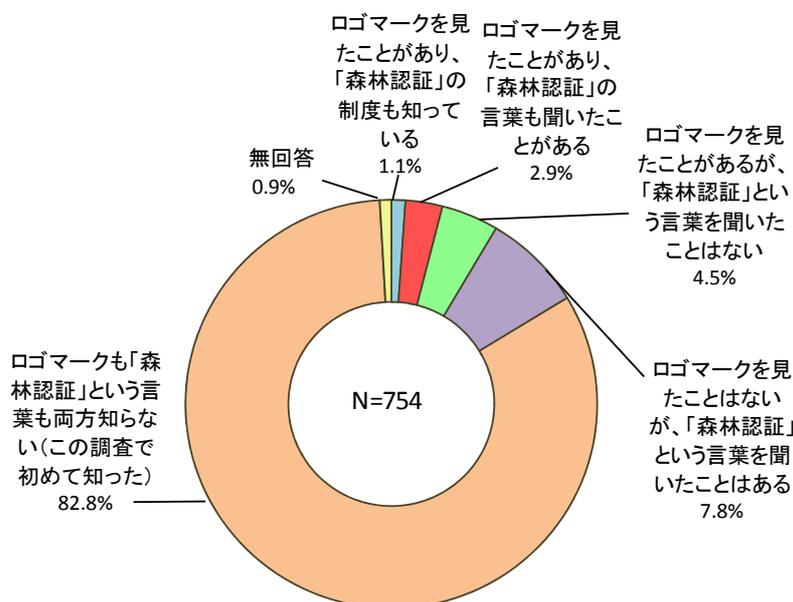


その他

無回答



問5 森林認証制度やロゴマークを知っていますか。次の中から、1つだけお選びください。



【全体】

「ロゴマークも『森林認証』という言葉も両方知らない（この調査で初めて知った）」が82.8%と最も高く、次いで「ロゴマークを見たことはないが、『森林認証』という言葉を聞いたことはある」が7.8%、「ロゴマークを見たことはあるが、『森林認証』という言葉を聞いたことはない」が4.5%となっている。

【圏域別】

「ロゴマークも『森林認証』という言葉も両方知らない（この調査で初めて知った）」は、オホーツク圏（88.4%）が最も高く、次いで十勝圏（86.0%）となっている。「ロゴマークを見たことがあり、『森林認証』の制度も知っている」は、オホーツク圏（4.7%）が最も高く、次いで道北圏（1.3%）となっている。

【人口規模別】

「ロゴマークも『森林認証』という言葉も両方知らない（この調査で初めて知った）」は、札幌市（86.4%）が最も高く、次いで人口10万人以上の都市（81.9%）となっている。「ロゴマークを見たことはないが、『森林認証』という言葉を聞いたことはある」は、人口10万人未満の都市（9.2%）が最も高く、次いで札幌市（7.8%）となっている。

【性別】

「ロゴマークも『森林認証』という言葉も両方知らない（この調査で初めて知った）」は、男性81.6%、女性84.6%となっている。「ロゴマークを見たことはないが、『森林認証』という言葉を聞いたことはある」は、男性8.0%、女性7.3%となっている。

【年代別】

「ロゴマークも『森林認証』という言葉も両方知らない（この調査で初めて知った）」は、50～59歳（87.7%）が最も高く、次いで30～39歳（87.0%）となっている。「ロゴマークを見たことはないが、『森林認証』という言葉を聞いたことはある」は、70歳以上（9.7%）が最も高く、次いで60～69歳（9.4%）となっている。

【職種別】

「ロゴマークも『森林認証』という言葉も両方知らない（この調査で初めて知った）」は、事務職系（87.5%）が最も高く、次いで主婦（86.8%）となっている。「ロゴマークを見たことはないが、『森林認証』とい

う言葉を聞いたことはある」は、その他（13.8%）が最も高く、次いで無職（11.9%）となっている。

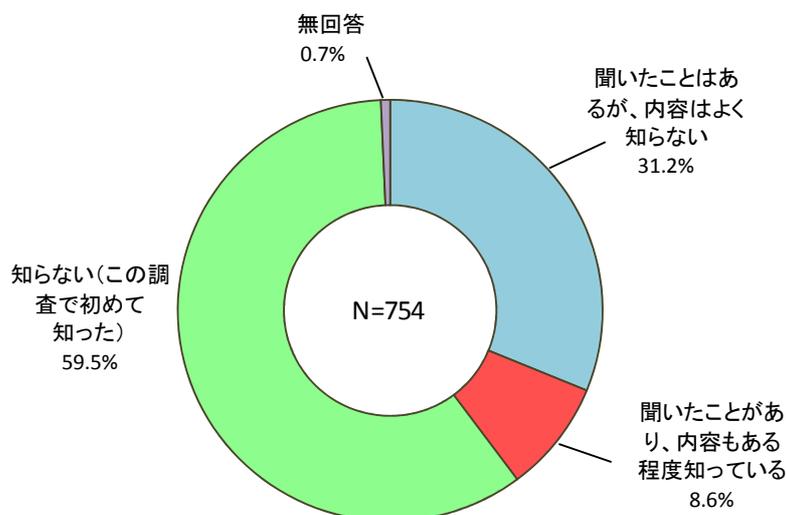
【居住年数別】

「ロゴマークも『森林認証』という言葉も両方知らない（この調査で初めて知った）」は、1年未満（100.0%）が最も高く、次いで10～20年未満（88.2%）となっている。「ロゴマークを見たことはないが、『森林認証』という言葉を知ったことはある」は、1～5年未満（11.3%）が最も高く、次いで20年以上（8.3%）となっている。

- ①ロゴマークを見たことがあり、「森林認証」の制度も知っている
 ②ロゴマークを見たことがあり、「森林認証」の言葉も聞いたことがある
 ③ロゴマークを見たことがあるが、「森林認証」という言葉を聞いたことはない
 ④ロゴマークを見たことはないが、「森林認証」という言葉を聞いたことはある
 ⑤ロゴマークも「森林認証」という言葉も両方知らない(この調査で初めて知った)
 ⑥無回答

凡例	①	②	③	④	⑤	⑥
全体(N=754)	2.9	4.5	7.8	82.8		0.9
圏域						
道南圏(N=58)	1.7	7.5	8.6	82.8		1.7
道央圏(N=472)	1.1	3.0	3.8	8.1	83.3	0.8
道北圏(N=75)	1.3	4.0	8.0	8.0	78.7	
オホーツク圏(N=43)	2.3	4.7	2.3	88.4		2.3
十勝圏(N=50)	2.0	6.0	6.0	86.0		
釧路・根室圏(N=35)	5.7	8.6	8.6	77.1		
無回答(N=21)	4.8	14.3		76.2		4.8
人口規模						
札幌市(N=295)	0.7	1.4	3.4	47.8	86.4	0.3
人口10万人以上の都市(N=188)	0.5	2.7	7.4	6.9	81.9	0.5
人口10万人未満の都市(N=131)	5.3	5.3	9.2	78.6		1.5
町村部(N=123)	4.1	4.9	2.4	7.3	79.7	1.6
無回答(N=17)	11.8			82.4		5.9
性別						
男性(N=386)	1.6	3.4	4.7	8.0	81.6	0.8
女性(N=356)	0.6	2.2	4.5	7.3	84.6	0.8
無回答(N=12)	8.3	16.7		66.7		8.3
年代						
20～29歳(N=56)	1.3	3.6	12.5	3.6	78.6	
30～39歳(N=92)	3.3	4.3	4.3		87.0	1.1
40～49歳(N=130)	2.3	3.1	8.5		85.4	0.8
50～59歳(N=162)	0.6	2.5	6.8		87.7	
60～69歳(N=159)	0.6	3.1	4.4	9.4	81.8	0.6
70歳以上(N=144)	3.5	2.8	5.6	9.7	76.4	2.1
無回答(N=11)	9.1	18.2		63.6		9.1
職種						
自営業(農林漁業)(N=15)	13.3	6.7	6.7		73.3	
自営業(商工サービス業)(N=43)	2.3	4.7	2.3	11.6	79.1	
自由業(N=23)	4.3	4.3	4.3	8.7	78.3	
事務職系(N=152)	0.7	4.6	2.6	4.6	87.5	
労務職系(N=137)	0.7	1.5	5.1	6.6	85.4	0.7
主婦(N=152)	0.7	2.6	5.3	3.9	86.8	0.7
学生(N=5)	20.0				80.0	
無職(N=151)	1.3	1.3	6.6	11.9	76.8	2.0
その他(N=65)	1.5	5.1	13.8		80.0	1.5
無回答(N=11)	9.1	18.2		63.6		9.1
居住年数						
1年未満(N=12)	100.0					
1～5年未満(N=62)	3.2	8.1	6.5	11.3	69.4	1.6
5～10年未満(N=44)	11.4	6.8			79.5	2.3
10～20年未満(N=93)	6.5	2.2	3.2		88.2	
20年以上(N=527)	1.1	2.1	4.4	8.3	83.3	0.8
無回答(N=16)	12.5			81.3		6.3

問6 あなたは、「木育（もくいく）」という言葉をご存じですか。次の中から、1つだけお選びください。



【全体】

「知らない（この調査で初めて知った）」が59.5%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」が31.2%、「聞いたこともあり、内容もある程度知っている」が8.6%となっている。

【圏域別】

「知らない（この調査で初めて知った）」は、十勝圏（70.0%）が最も高く、次いで道北圏（65.3%）となっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」は、オホーツク圏（39.5%）が最も高く、次いで釧路・根室圏（37.1%）となっている。

【人口規模別】

「知らない（この調査で初めて知った）」は、札幌市（62.7%）が最も高く、次いで人口10万人以上の都市（61.7%）となっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」は、人口10万人未満の都市（38.2%）が最も高く、次いで町村部（34.1%）となっている。

【性別】

「知らない（この調査で初めて知った）」は、男性60.1%、女性59.0%となっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」は、男性29.8%、女性32.9%となっている。

【年代別】

「知らない（この調査で初めて知った）」は、20～29歳（76.8%）が最も高く、次いで30～39歳（66.3%）となっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」は、50～59歳（37.0%）が最も高く、次いで70歳以上（35.4%）となっている。

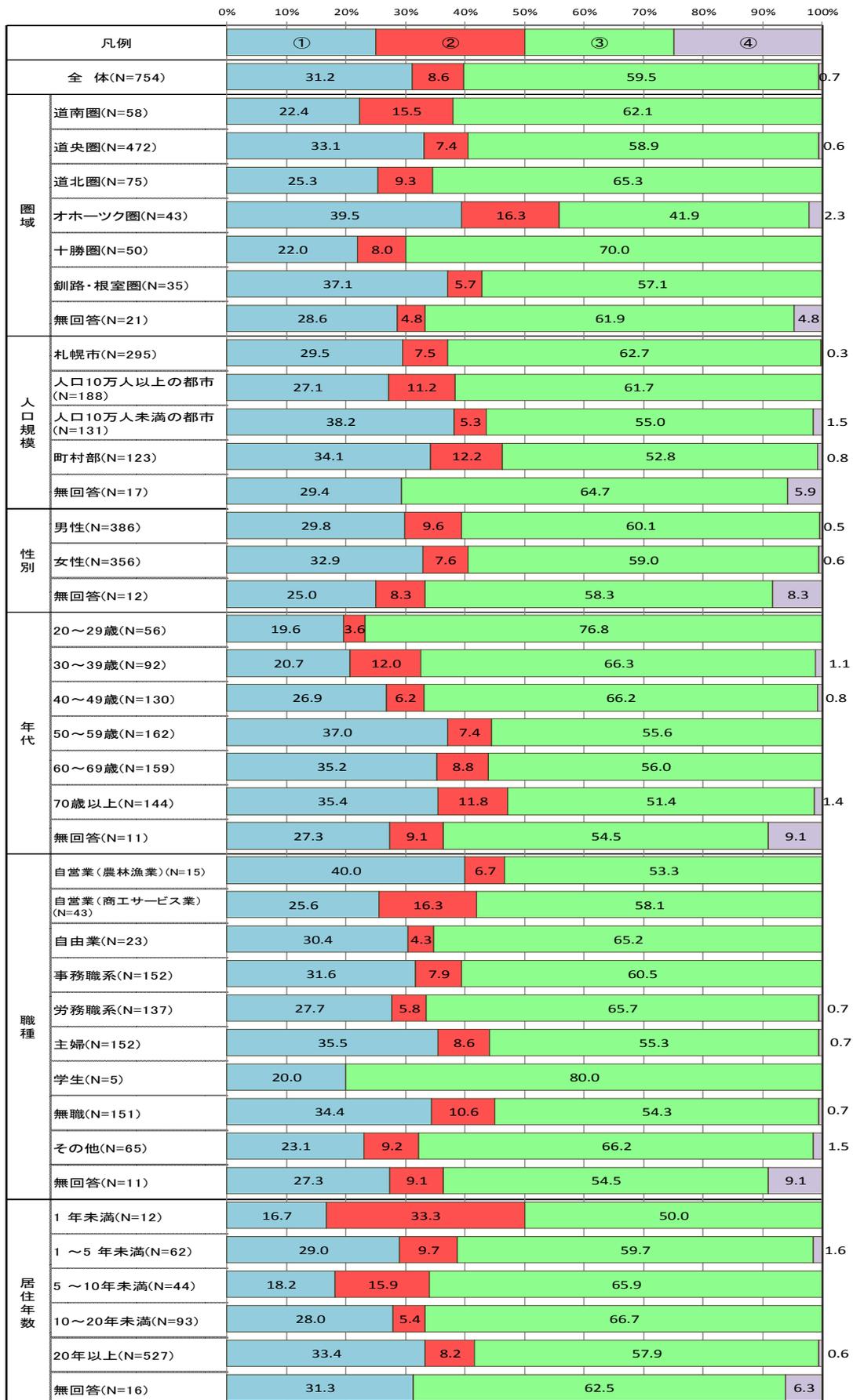
【職種別】

「知らない（この調査で初めて知った）」は、その他（66.2%）、労務職系（65.7%）で比較的高くなっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」は、自営業（農林漁業）（40.0%）が最も高く、次いで主婦（35.5%）となっている。

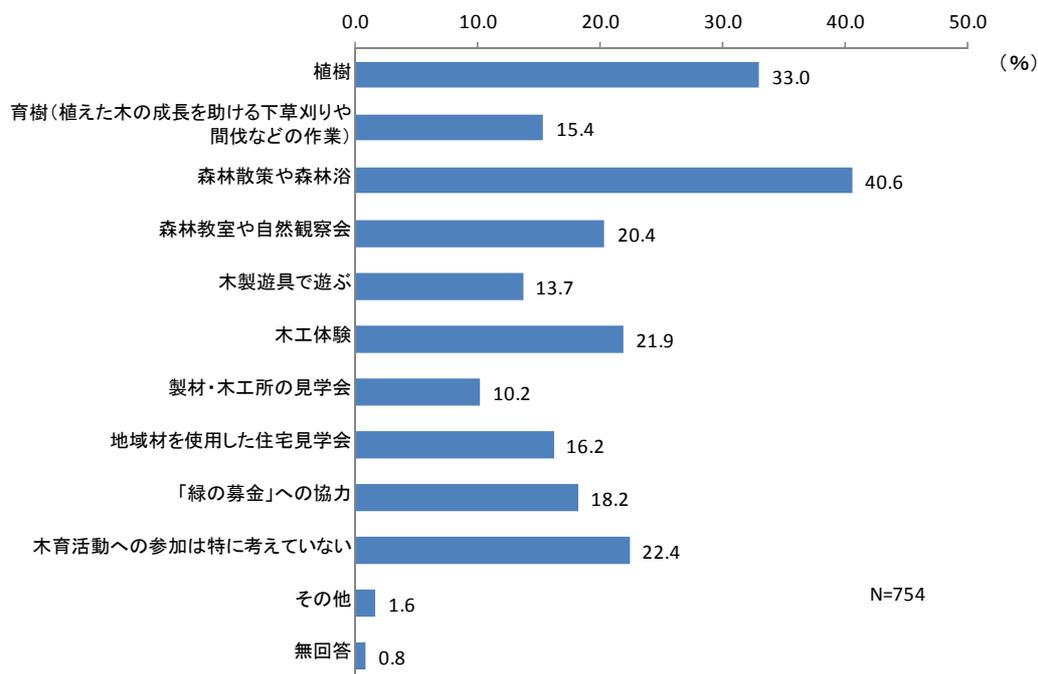
【居住年数別】

「知らない（この調査で初めて知った）」は、10～20年未満（66.7%）が最も高く、次いで5～10年未満（65.9%）となっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」は、20年以上（33.4%）が最も高く、次いで1～5年未満（29.0%）となっている。

- ①聞いたことはあるが、内容はよく知らない
 ②聞いたことがあり、内容もある程度知っている
 ③知らない(この調査で初めて知った)
 ④無回答



問7 あなたがこれから参加してみたいと考える木育活動はどれですか。次の中から、いくつでもお選びください。



【全体】

「森林散策や森林浴」が 40.6%と最も高く、次いで「植樹」が 33.0%、「木育活動への参加は特に考えていない」が 22.4%となっている。

【圏域別】

「森林散策や森林浴」は、十勝圏 (52.0%) が最も高く、次いで釧路・根室圏 (42.9%) となっている。「植樹」は、道北圏 (38.7%) が最も高く、次いで釧路・根室圏 (34.3%) となっている。

【人口規模別】

「森林散策や森林浴」は、札幌市 (44.1%) が最も高く、次いで人口 10 万人以上の都市 (42.0%) となっている。「植樹」は、人口 10 万人以上の都市 (36.2%) が最も高く、次いで札幌市 (33.9%) となっている。

【性別】

「森林散策や森林浴」は、男性 39.4%、女性 42.4%となっている。「植樹」は、男性 31.6%、女性 34.0%となっている。

【年代別】

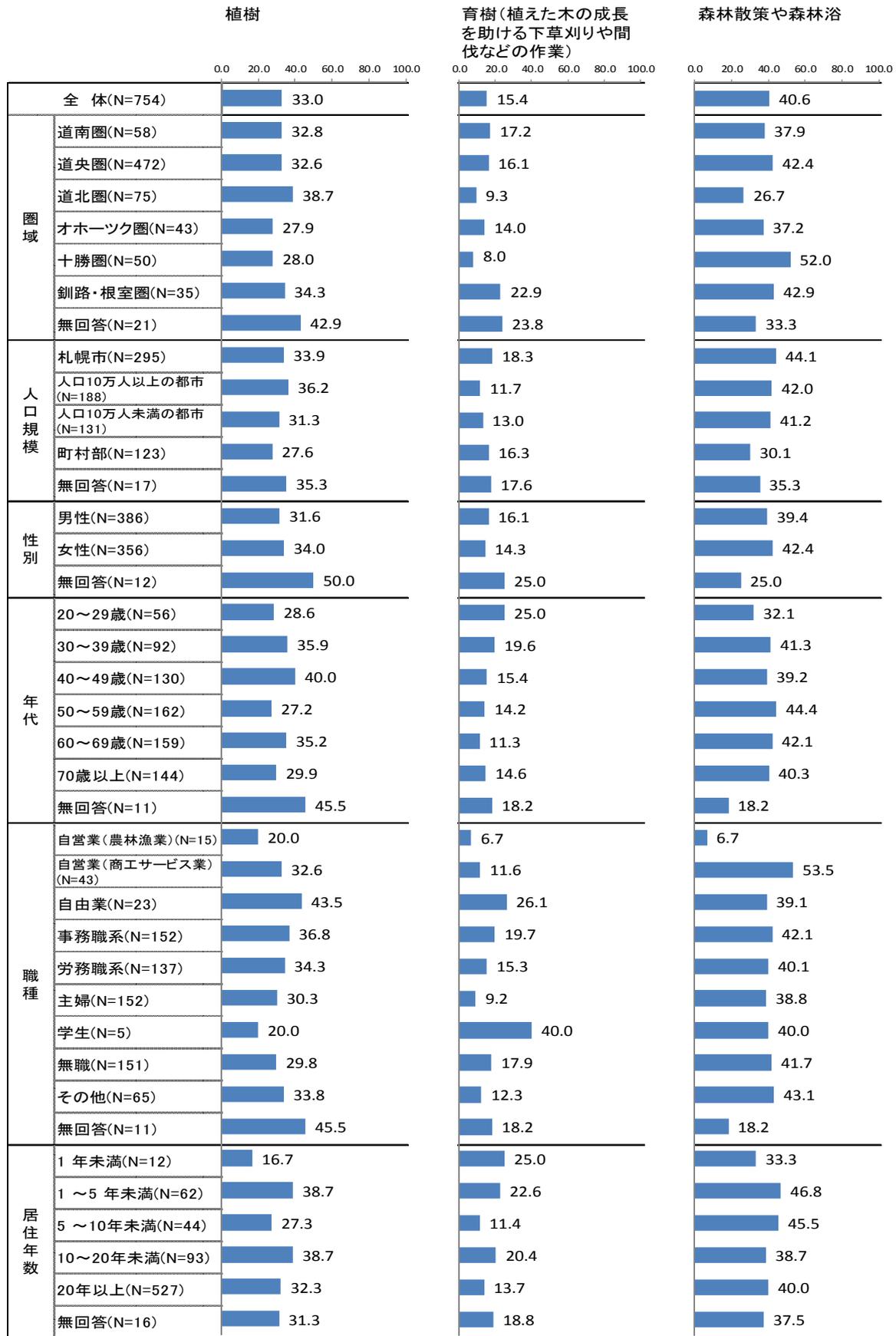
「森林散策や森林浴」は、50～59 歳 (44.4%) が最も高く、次いで 60～69 歳 (42.1%) となっている。「植樹」は、40～49 歳 (40.0%) が最も高く、次いで 30～39 歳 (35.9%) となっている。

【職種別】

「森林散策や森林浴」は、自営業 (商工サービス業) (53.5%) が最も高く、次いでその他 (43.1%) となっている。「植樹」は、自由業 (43.5%) が最も高く、次いで事務職系 (36.8%) となっている。

【居住年数別】

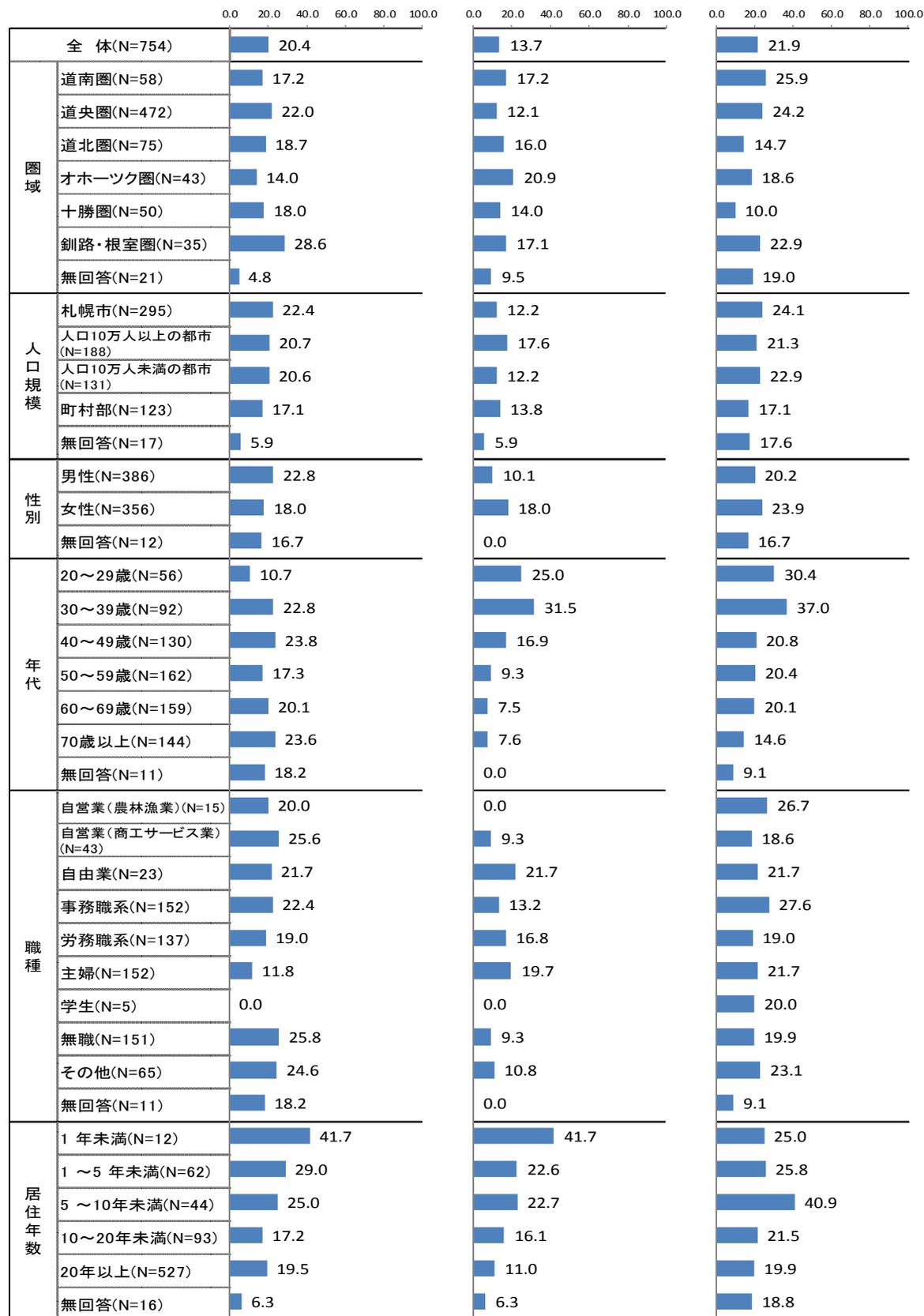
「森林散策や森林浴」は、1～5 年未満 (46.8%) が最も高く、次いで 5～10 年未満 (45.5%) となっている。「植樹」は、1～5 年未満、10～20 年未満 (ともに 38.7%) が同率で最も高く、次いで 20 年以上 (32.3%) となっている。



森林教室や自然観察会

木製遊具で遊ぶ

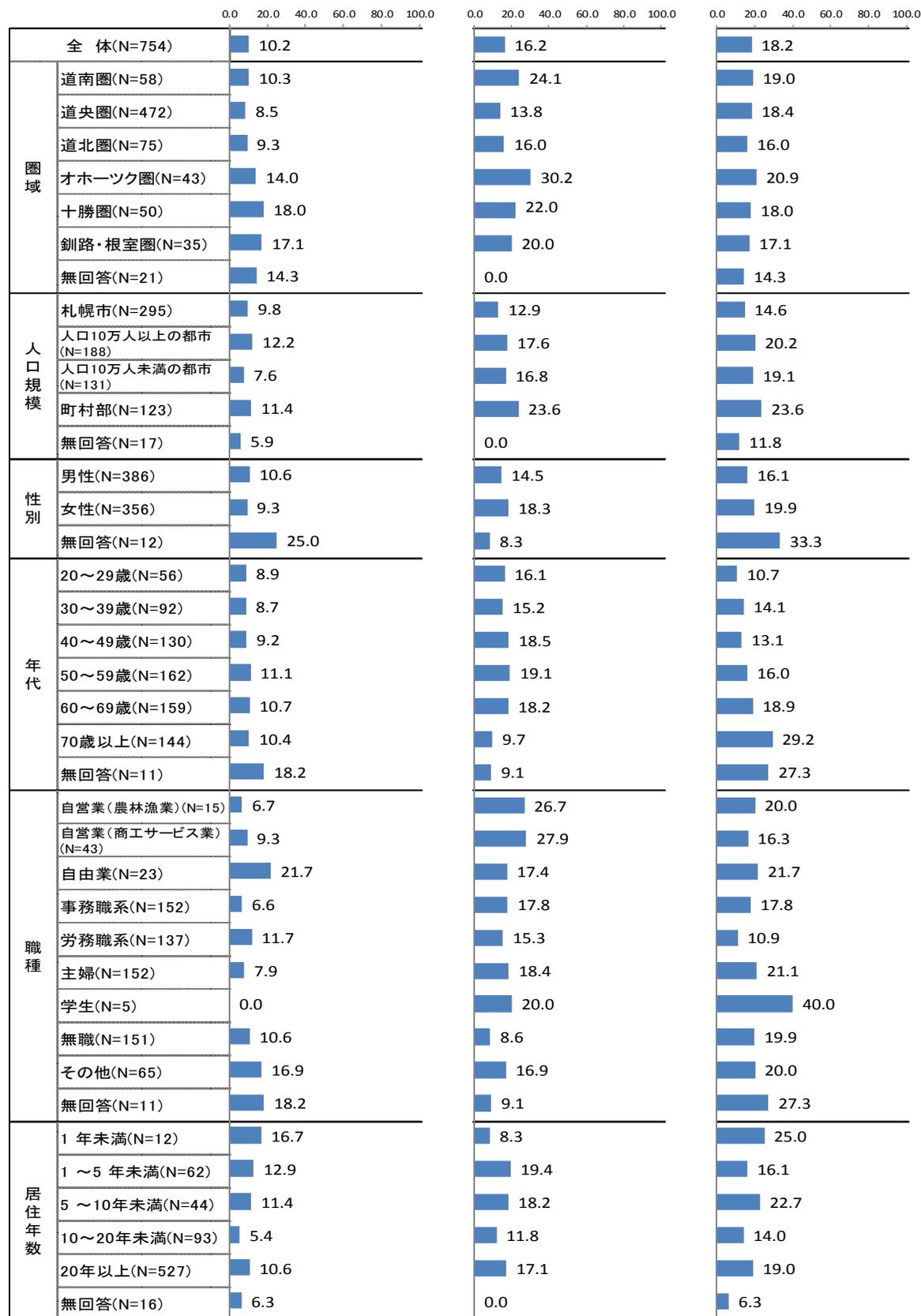
木工体験



製材・木工所の見学会

地域材を使用した住宅
見学会

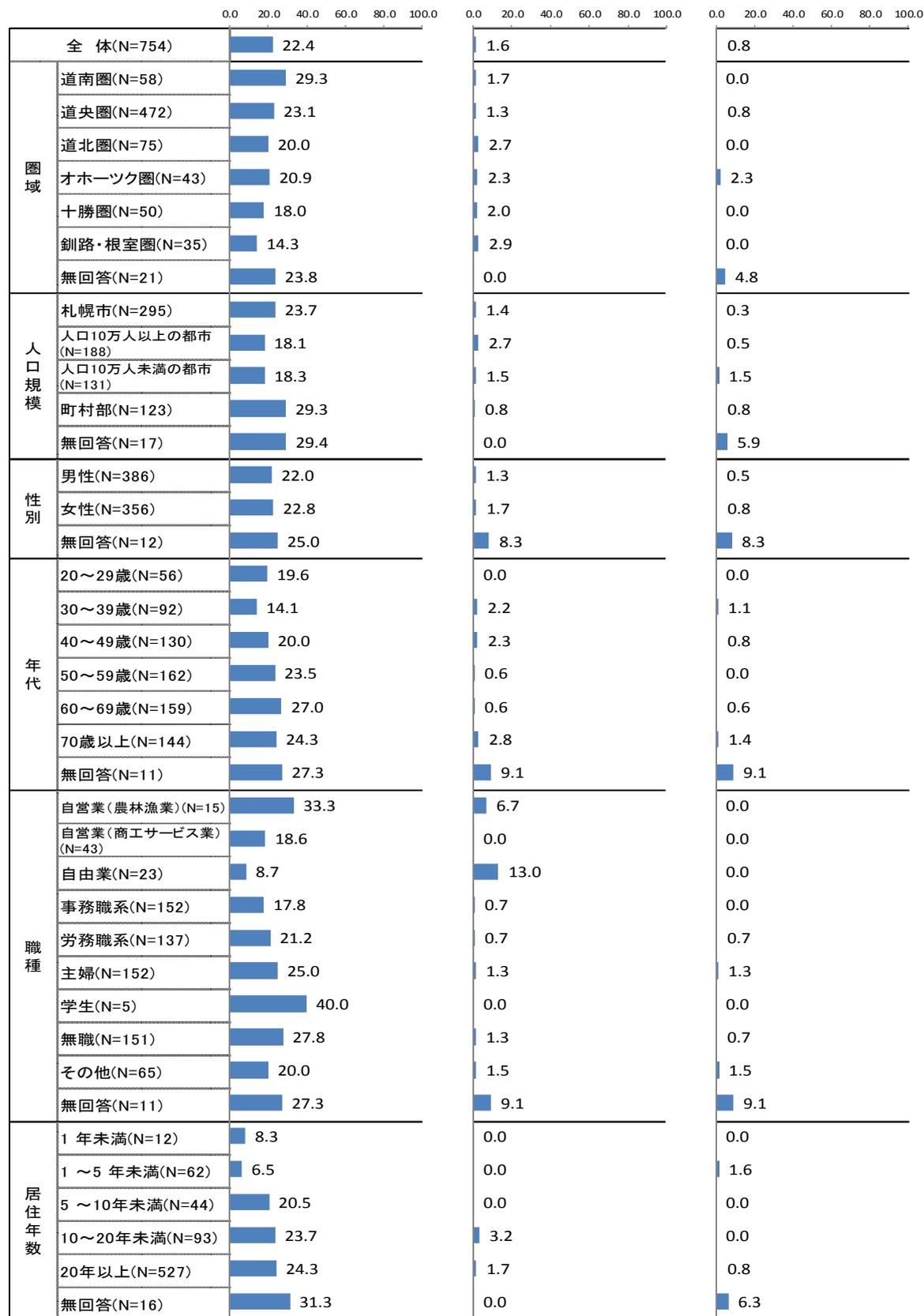
「緑の募金」への協力



木育活動への参加は特に考えていない

その他

無回答



「森林・森林づくりに関する意識について」の調査を終えて

道民の森林に期待する働きとしては、「山崩れや洪水などの災害を防止する働き」・「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」など森林の持つ公益的機能の発揮への期待が高いほか、「木材を生産する働き」とする意見が前回（平成24年度）調査で約19%であったのに対し、今回の調査で約24%に増加している。

また、道産木材や木製品の利用により期待される効果としては、「植樹や間伐などの森林の手入れが進むことによる森林の持つ多面的機能の発揮」とする意見が6割を超え、次いで「北海道経済の活性化」とする意見が3割となっている。

さらに、北海道で平成16年に生まれた「木育」であるが、前回（平成24年度）調査で約27%であった木育の認知度が、今回の調査で約40%と増加した。

こうした調査結果を踏まえ、新たな北海道森林づくり基本計画（計画期間 平成29～38年度）を策定していくとともに、今後は、森林資源の循環利用の推進による森林の持つ多面的機能の発揮、木育の推進による森林づくりに対する道民理解の促進などにより、適切な森林づくりを着実に進めていく。

（水産林務部総務課）